

## 教室を越えた学び



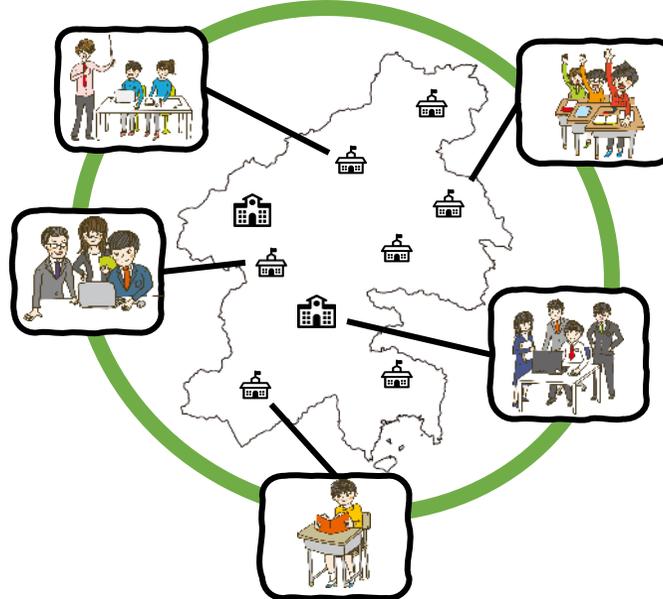
市内公立小学校の児童がともに学びます  
多様な意見の比較・検討を通して学びを深めます。

## 手厚いサポート体制



事前・事後の学習で  
東広島市地域学習デジタルコンテンツ  
(通称「のん太の学び場」)を活用

## 市内9町の小学校を結ぶ オンライン地域学習



- ③ 課題の解決策を提案します
  - ② 概念を協働して構築します
  - ① 地域の多様性を理解します
- 市内各地の小学校がつながって

質問・発表

課題提示・情報提供

単元構想・教材提供・学習支援

質問・発表

- ① 学習空間を拡大・再構築します
  - ② 児童と先生の学びを支援します
  - ③ ICTを効果的に活用します
- 教育委員会と大学が連携して

## 地域との対話



地域の様子をライブで中継したり  
地域の方々と双方向で対話したりします

地域の方々の協力取り付け  
動画作成・中継実施

## 研究者・学生の参画



大学の研究成果を活かして  
授業開発と授業実践を支援します

## 2022年7月実施「社会科教科書にのせたい東広島市の農家とは？」の場合



他校に向けて発表する  
参加校の児童



各校で授業進行を担う  
参加校の担任 (T2)



農家と児童が質疑・応答

広島大学EVRIが企画構想  
東広島市教育委員会が運営  
参加校募集→事前研修会実施→  
当日は7校12学級の5年生を結ぶ



授業をサポートする  
学生支援者 (T3)



地域の農業法人  
(販売農家)



地域の小規模農家  
(自給的農家)



大学研究室から  
助言・コメントする  
専門家 (ゲスト)



授業ホスト校で  
全体進行とファシリテート  
を担う大学教授 (T1)

学習環境をコーディネートする大学院生 (T3)

## 授業づくりに誰が関与しているか, 授業づくりで何が活用されているか

多様な立場の人々を  
結び・対話する授業



教室を超えて情報を  
共有・吟味する授業

3週間前

- 市教委の指導主事と大学の教授が授業のコンセプトづくり(対面)

2週間前

- 市教委より市内小学校に参加校を募る

1週間前

- 参加校の教員と市教委・大学の三者で授業の目標・計画を共有(オンライン)
- 市民・専門家に協力を依頼(対面)

前日

- 参加校の接続テスト(オンライン)
- 授業ホスト校の環境づくり(対面)
- 学生支援者の打ち合わせ(対面)

当日

- 授業の実施(2単位時間)  
教室と教室, 児童と市民・専門家を結ぶ

終了後

- 指導主事と大学教授, 学生支援者で授業の振り返り(オンライン)
- 授業記録, 動画の一般公開(HPとYouTube)

- 児童向け: 事前アンケートの実施(Google Forms)
- 教師向け: 実施計画や教材の共有(Google Classroom)

- 事前アンケートの結果分析
- 結果に基づいて実施計画の見直し
- 結果を教材として児童にフィードバック

- 個人として, クイズに参加, 意見の表明(Google Forms)
- 学級として, 仮説や賛否・提案を発信(Google Slides, Jamboard)
- 他校の児童, 市民・専門家との対話(Zoom)

- 児童向け: 事後アンケートの実施(紙, 自由記述あり)
- 教師向け: 成果と課題のフィードバック(Google Sheets)

## 2022年2月実施「もしも東広島に「大学」がなかったら？」の場合

参加校の教員と市教委・大学の三者で  
授業の目標・計画を共有(オンライン)



大学の立地が地域の人口増加や  
自分たちの生活に影響を  
与えていることは分かっている

本時の目標と  
学習指導要領との関わり

小学校学習指導要領(平成29年告示)

第2章 第2節 社会【第3学年】

2 内容

(4)市の様子の移り変わりについて、  
学習の問題を追究・解決する活動を通して、  
次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。  
(7)市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、  
移り変わってきたことを理解すること。

(イ)聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、  
年表などにまとめること。

(ロ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。  
(7)交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの  
時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、  
それらの変化を考え、表現すること。



個人として、クイズに参加、意見の表明(Google Forms)

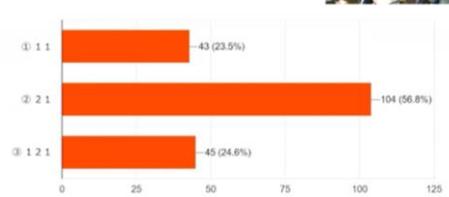
大学とは何か?  
周りには何かがあるのか?



大学とは何か?  
周りには何かがあるのか?

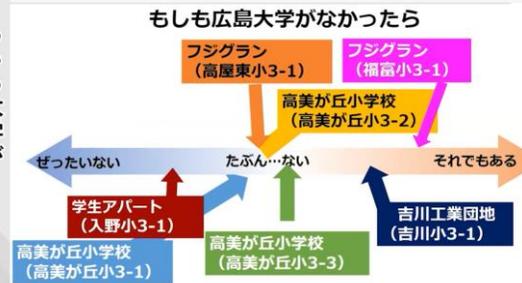
1. 広島県に大学はいくつあるでしょうか?

183件の回答



学級として、仮説や賛否・提案を発信(Google Slides, Jamboard)

もしも東広島市に無かったら...



なぜ東広島市に大学が集まっているのだろうか?

- 吉川小 面積が広がったから。二大プロジェクトでまちづくりが進められたから。
- 高屋東小 人口が増えたから。土地が広いから。広島市から引っ越ししてきたから。
- 高美が丘3-1 東広島を発展させるために大学をつくった。
- 高美が丘3-2 東広島市に住んでいる人が通うところがないので大学を作った。広い土地があったから。広島県の新しい発見が多く東広島市にあったから。三大プロジェクトがあって大学に行きたい人が増えたから。
- 高美が丘3-3 土地が広くなって人口が増えて、大学の教室が足りなくなったから。
- 福富小:市が大きくなって、人口が増え、まちがはって入ったから大学が増えた。
- 入野小:広い土地があり、人が少なく、建物も少なかったから、大きな研究や設備が整えられるから。

学生支援者の打ち合わせ(対面)



他校の児童, 市民・専門家との対話(Zoom)



## 「広域交流型オンライン社会科地域学習」スナップショット



個人端末や紙資料で調べ活動



T1の全体進行



市長との対話



警察署から中継



T1が児童に発問



スーパーマーケットから中継



消防署から中継



仮説や意見を発表



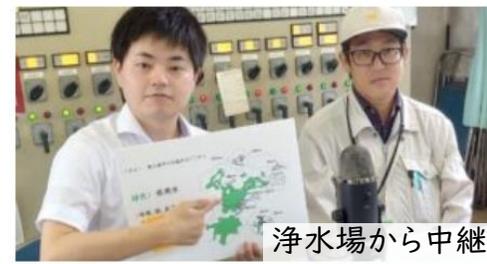
学級間の対話



T2の授業進行



外国との対話(時差9時間)



浄水場から中継



市議会議員との対話



ため池から中継



大型ディスプレイで情報読解



菓子店から中継



## 「広域交流型オンライン社会科地域学習」授業テーマ一覧

(赤字:3年生, 青字:4年生, 緑字:5年生)



### 2021年度

- 6月 ピンク色のバスのヒミツをさがれ! 仲間をさがせ!  
ーピンクのバスのひみつー
- 6月 ピンク色のバスのヒミツをさがれ! 仲間をさがせ!  
ー私たちの町のバスのひみつー
- 7月 スーパーと直売所, どこが違う? どこが同じ?
- 9月 さい害から身を守る  
ーさい害でキケンなところ, さい害のサインをさがそう!ー
- 10月 高屋に新しい消防署ができるらしいよ…なぜ?
- 11月 「伝とう」って変わっていいの?  
私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう!
- 12月 駅からみるわたしたちの市のあゆみ
- 1月 外国から来た人にとって東広島市はくらしやすいか?
- 2月 もしも東広島に「大学」がなかったら?
- 3月 副読本『わたしたちの東広島市』の表紙にぴったりの写真を選ぼう

### 2022年度

- 5月 広島中央エコパークは,  
なぜ「広島中央」なのか? 本当に「エコ」な「パーク」なのか?
- 6月 お買い物に役立つ, スーパー・直売所・コンビニの魅力を表したキャッチフレーズをつくろう!
- 7月 社会科教科書にのせたい東広島市の農家とは?
- 9月 東広島市の水は, なぜ高い, なぜ遠くから?
- 10月 海からはなれた東広島市に自動車工場はできるだろうか?
- 11月 東広島市に新しく交番か駐在所をおくならば, どこ?
- 12月 メディアはどのようにして利益を得ているのだろうか?
- 1月 もしも東広島市に広島大学がなかったら?
- 2月 外国から来た人にとって東広島市はくらしやすいか?

**コモンプロジェクト**

～課題解決に向けて 市と大学が共に取り組む～

広島大学の学術研究と、東広島市の社会課題をマッチングし、課題の解決を目指すのが「コモンプロジェクト」です。市と大学は、地域の課題と一緒に考え、市が持つ行政資源と大学の研究を生かして、課題解決に取り組んでいきます。

**取り組み中のプロジェクト**



**市内の小学校と  
結んだ遠隔授業**  
広島大学教育ビジョン研究センターと教育委員会が連携して、市内小学校と地域を結ぶ「広域交流型オンライン社会科地域学習」を実施しています。市内各所からの生中継や、ドロー映像などを活用しながら、効果的な遠隔教育プログラムの開発と月1回の授業実践に取り組んでいます。

**市内の小学校と  
結んだ遠隔授業**



ETH Zurich Future City Laboratory  
(https://fcl.ethz.ch)



**道路整備に向けた  
シミュレーション  
システムの構築**  
広島大学大学院先進理工系科学研究科で開発中の交通シミュレーションモデルを活用し、市独自のシミュレーションモデルの構築に取り組んでいます。これにより、従前の道路整備事業の評価の枠組みを超えて、災害時における道路交通網の維持や、新たな公共交通機関へのアクセスを視野に入れた、より効率的な道路整備を目指しています。

**道路整備に向けた  
シミュレーション  
システムの構築**

**豊栄町での取り組みの様子**



**地域自然資源を  
博物館に**  
広島大学には、貴重な自然史科学の資料や標本などが所蔵されています。「これらをもっと活用し、自然史博物館が活躍したい」と考えていました。地域活性化を目指し、自然史科学を旨とする市と、自然史科学を旨めたい大学の思いが「In iGown」協働による「仮



広島大学総合博物館 館長  
中坪 孝之さん

称「県央自然史博物館を核とした「知」の基盤整備と地域創生」が採択されました。同プロジェクトの企画展「県央自然史博物館がやってくる!?」を昨年7月23日から9月11日までの約2カ月間、豊栄支所で開催。企画展には、想像の倍以上の2,442人の来場があり、今年も開催する予定です。  
子どもの好奇心が育つ環境を提供することで、子育て支援につながったり、学びを楽しむ子どもが増えたり、東広島市がより住みやすいまみ上げていきたいと考えています。



**子どもの健やかな成長を支え、  
仕事と子育ての両立を応援**

**19億**  
7,601万円

若者や女性から選ばれるまちになり、子育て世代が明るい展望を描き、安心して子どもを産み育てられる社会の実現を目指します。併せて、次の時代を担う子どもの健やかな成長を育み、生涯にわたって充実した生活を送るための基礎を築くことができる環境づくりに取り組みます。

- 1 出産育児の相談支援拠点で  
不安や心配に切れ目なく寄り添う**  
出産育児の相談支援拠点「すくすくサポート」を増設し、身近な場所できめ細かなサポートを提供する体制を充実。
- 2 子育て世帯の医療にかかわる  
経済的負担を軽減**  
乳幼児等医療費の支給対象を入院は18歳、通院は15歳まで拡大し、負担を軽減。
- 3 積極的な保育士確保対策で年間を通じた  
保育所などの待機児童を解消**  
保育士への給付金支給期間の延長に加え、県外出身者への加算や、奨学金返済の支援制度を新設。
- 4 「個別最適な学び」と  
「協働的な学び」の一体的な推進**  
ICTを活用した授業づくり、AI技術を用いたデジタルドリルの導入、ラーニングルーム（協働学習ルーム）での遠隔教育などによる未来の学びを促進。  
オンライン学習教材「デジタルドリル」を活用した授業の様子（磯松中学校）
- 5 広島大学と連携し、  
高い知見と専門性を活用**  
発達支援のうち、要経過観察児を対象とした「健診事後親子教室」や、広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）との協働による遠隔教育を実施。



保育サービスの提供体制を強化し、待機児童を解消するため、保育士の就職と定着を支援する給付金制度などを大幅に拡充します。

医療費の支援の拡大は、子育て世帯にとって本当にありがたいことです。学校では、一人一台タブレットが支給されていて、今後はICTやAI技術を取り入れた幅広い学びができることに、期待感でいっぱいです。移住者の私たちにあって東広島市は、可能性にあふれたまちです。

野上貴洋さん、結衣さん、夢歩さん(小4)、竜誠さん(小2)



## 広島 NEWS WEB

# “外国人が暮らしやすい東広島” オンライン授業で考える

02月22日 19時13分



東広島市で、市内の6つの小学校と市役所などを結んでオンライン授業が行われ、子どもたちが外国人の市民が暮らしやすい町にするにはどうしたらよいかを話し合いました。

子どもたちに自分たちが暮らす地域について学んでもらおうと、東

広島市と広島大学が企画した授業には、市内の6つの小学校の4年生およそ270人が参加しました。

授業では、はじめに広島大学の草原和博教授が、東広島市にはおよそ8000人の外国人の市民がいることや、総人口に占める外国人の市民の割合が県内の自治体の中で最も高いことを説明しました。

このあと子どもたちは、市内に住む留学生や技能実習生たちから、病院に行った時に細かい症状が伝えられないことや、イスラム教の礼拝室がないといった生活をする中で困っていることを聞きました。

それを受けて、外国人の市民が暮らしやすい町にするにはどうしたらいいかを話し合い、市役所にいる東広島市の高垣広徳市長にオンラインで、病院に専属の通訳を置いてはどうかや、公共の施設に礼拝室を設置してはどうかといった提案をしていました。

授業に参加した三永小学校の児童の1人は「外国人やみんなが暮らしやすい東広島市になったらいいなと思いました」と話していました。また別の児童は「ほかの学校の意見も聞いて新しい思考が生まれました」と話していました。

## まわだい。 オンラインで学習！東広島市での外国人市民の暮らし

図広報戦略監 ☎(082)420-0919

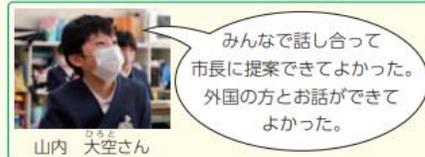
2月22日(水)、市内の6つの小学校、地域、広島大学、市長室をオンラインでつないだ社会科地域学習が行われました。

児童はまず、広島大学の草原教授から外国人市民の現状を学習。次にオンラインで参加している外国人市民から、本市で生活する上で困ったことなどの話を聞きました。外国と日本の生活や文化の違いに驚き、興

味津々の子どもたち。「困っている外国人市民のために何ができるか考えよう！」という意欲も高まりました。その後、参加した6校の児童がテレビ会議で交流し、子どもならではの視点と発想力で「外国人市民にとって暮らしやすいまち」にするための方策を考え、オンラインで市長室にいる市長へ提案しました。



梶田 和さん



山内 大空さん

広報東広島 2023年4月号,裏表紙

他者,他校,ステークホルダーとつながることで

- ・ 思いつかないような意見が聞ける
- ・ 他の意見を聞いて,新しい思考が生まれる
- ・ みんなにとっての暮らしやすさを考える
- ・ 話し合いの結果を提案することができる